

# 第48回 労働リーダーシップコース開催報告

金属労協組織総務局長 上口 智子

「時代の求める労働組合の役割」を総合テーマに2016年10月13日から29日まで、京都・関西セミナーハウスにおいて第48回労働リーダーシップコースを開催した。北は栃木県から南は熊本県まで総勢34名の受講生が研鑽に励んだ。

## 10月13日ー開校式

開校式は、古都京都にふさわしく篠笛（森田玲・玲月流初代）の演奏で始まった。冒頭、式辞として香川孝三校長（大阪女学院大学教授）が「リーダーシップを高めるこのコースで、職場や組合での課題について議論するとともに、プレゼンテーション能力の向上と組合員へのサービスを円滑にするためのコミュニケーション能力の向上に励んでほしい。健康を維持して最後までがんばってほしい」と激励した。次いで、名誉校長である松岡敬同志社大学学長の挨拶の後、主催者を代表して相原康伸金属労協議長が挨拶に立ち、「我々は労働組合として、より良い職場を



篠笛の演奏で始まった開校式

つくることに専念し、生産性を高め、働きがいのある職場をつくること、より良い社会をつくることにつながると信じて活動してきた。産業と社

会をつなぐ私達労働組合の役割について、このコースを通じてもう一度考える時にしてほしい」と述べた。その後、来賓の厚生労働省の酒光一章総合政策・政策評価審議官、山本一志金属労協関西ブロック代表、石田光男副校長（同志社大学教授）から挨拶をいただき、最後に受講生を代表して、住友電工労働組合横浜支部の山本圭吾さんが決意表明を行った。

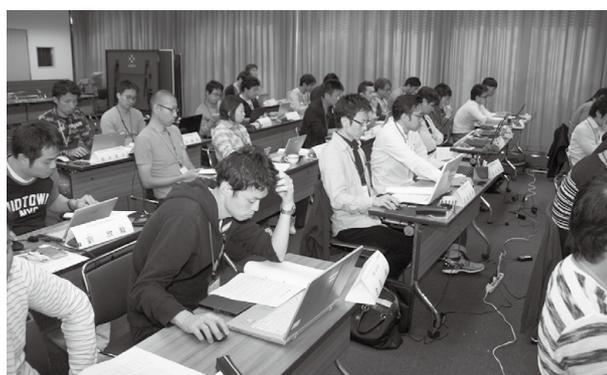
## 講義

このコースは、ユニオンリーダーに必要な基礎知識を4本の柱にもとづくカリキュラムで全人格的な教育をめざしている。「縦〓自分の歴史的背景を学ぶ」では労働組合の歴史

や国際労働運動論、「点〓自分の立っている場について学ぶ」では労働法や労使関係論、労働経済論について、「横〓自分の住む世界の拡がりについて学ぶ」では国際比較から見た日本経済や多様な働き方について、「深〓自分の生きる基礎について学ぶ」では職場のメンタルヘルス、深層心理について学ぶ。また、特定の課題について受講生同士でグループ討議をし、解決策を考え、まとめた結果を発表し、全体で討議しあう「組合戦略づくり」や、アンケートの分析方法を学ぶだけではなく、実際のアンケート用紙を用いて的確な調査票を作成するためにはどのような点に注意したらよいか、など実践的な手法も学習する「統計学」など、座



「組合戦略づくり」で全体討議を行う受講生



ある日の講義風景(統計学)



三役との特別討論会



鞍馬山散策

学だけではなく、幅広く学習できるような講義も実施した。

## 特別プログラム

講義以外には、「圓光寺」で行う坐禅体験やセミナーハウス内にあるお茶室「清心庵」でのお茶室体験など日本固有のカルチャーに触れるプログラムも実施した。圓光寺では、窓や扉が開け放たれた禅堂で足の組み方や手の組み方の他、視線の位置、呼吸法など禅を組む心得の指導を受け、およそ1時間坐禅を体験した。

特別講演「経営と人間」では、株式会社ソシオネクスト代表取締役会

長兼CEO・西口泰夫氏から「技術を活かす経営」の探求」のテーマで、組織活動において如何に個人・組織の部分最適の追求力を高め、その成果でもって全体が求める全体最適を創出することができるか、ご自身の経営体験を踏まえて、講演を受けた。また、講義の合間には、リフレッシュも兼ね、全員で鞍馬山散策にも出かけた。

## ゼミナール

総合テーマは「時代の求める

労働組合の役割」

ゼミナールでは、ものづくり産業

という共通の認識のもと、労働組合・職場で直面する課題について指導教授や受講生同士で討議を重ねながら解決案を探索した。5つのテーマに分かれ指導教授も一緒に議論する4回のゼミナールと、受講生が主体的に行う自主ゼミで議論を重ねた。最後にはゼミナール毎にパワーポイントを使って発表を行い、成果を共有化しあった。

ゼミナールのテーマおよび主な討議内容は次のとおり。

◎香川ゼミ

『労働組合と国際』〜21世紀国際社

会における労働組合の役割

現在労働組合が抱えている国際問題を①海外駐在員について、②外国人労働者について、③海外労使紛争について、の3つのテーマに絞り込み、それぞれ労働組合としての課題と対応策について討議した。

◎石田ゼミ

『労働組合と職場』〜労働組合の活性化に向けて

労働組合の役割、各労働組合の課題について課題の要素ごとに整理し、労働組合の活性化に向けて何が必要なのかの課題を絞り込みながら健全な労使関係の構築に向けた方策につ

いて討議した。

### ◎中田ゼミ

『労働組合と社会』～仕事と処遇

納得性のある給与の決め方と水準

各社の賃金制度を比較しながら一つの視点にとらわれることなく複眼的に賃金制度を分析しながら、今後の賃金政策のあるべき姿について討議した。

### ◎富田ゼミ

『労働組合と働き方』～ワーク・ライフ・バランスの実現

自分達を取り巻く働く環境の变化、理想のワーク（会社・職場）& ライフ（私生活）とは何か、そこに現実とのギャップは無いのか等について分析するとともに、「ワーク・ライフ・バランス」を実現するための労働組合としての方策について討議した。

### ◎上田ゼミ

『労働組合と企業』～時代の求める労働組合の役割と機能（組織力強化）

社会環境の変化を、経済面と文化面から分析、企業を取り巻く変化の現状認識を行った。また、課題設定を①雇用確保、②働き方改革、の二つに絞り、課題を克服するために労働組合としてすべきことを討議した。

## 初めての試み、特別討論会とオープンカレッジ

今回、開催期間を従来より2日間延ばしたことを受け、受講生だけで行う「討論会」に加え、初めての試みである金属労協三役と討論を行う「特別討論会」三役と語ろう」を実施した。討論テーマについては、受講生からなる討論会委員会で決定し、「ワーク・ライフ・バランス（女性の管理職・組合役員を増やすには）」「執行委員の育成について」など5つのテーマに分かれて三役と議論を行った。産別トップとの初めての討論ということもあり、緊張した雰囲気の中始まったが、次第に打ち解け、ざっくばらんに積極的な意見交換を行った。

また、広くコースの趣旨、合宿研修の魅力を知っていただくため、オープンカレッジを初めて実施した。労働リーダーシップコースも50年近く開催しているが、まだまだ未参加の組合も多数ある。講義の傍聴やコース期間中の受講生の生活、第1回からの学舎（まなびや）である関西セミナーハウスの食事などが体験できる企画である。募集時期が遅かったこともあり、参加者は2名であった

が、「産別を越えた集まりであり、さらに共同生活を行うことにより築かれた信頼関係のうえで交流については、自分自身の視野を広げ今後の幅広い活動に対しておおいに役立つものではないかと思いました。」「受講生自ら場を仕切り、徹底して受け身にさせない行程そのものにリーダー育成に対し受け継がれてきた伝統を感じた。」との感想を寄せていただいた。次回以降も引き続き実施し、できるだけ多くの組合役員の方にコースの魅力が伝えられたらと考えている。

## 10月29日ー閉校式

閉校式では冒頭、式辞として香川孝三校長（大阪女学院大学教授）が「皆さんは、講義でも、ゼミでもあらゆるプログラムに、非常に積極的に受講して、全体を盛り上げていただいた。ここで培った人間関係を大切に、50周年の時にまた全員で再会したい。ここで得たものをベースにさらに深掘した研鑽を期待している」と激励し、34名全員に修了証書を授与した。主催者代表挨拶として浅沼弘一

金属労協事務局長から「運営委員の先生方、留守を守っていただいた職場、家族への感謝を忘れず、それぞれの持ち場に帰って、ここで学んだこと、得た経験を実際の現場の中で活かしていただきたい。」と述べた。その後、ゼミナール担当講師の石田副校長（同志社大学教授）、中田運営委員（同志社大学院教授）が挨拶に立ち、修了生を激励した。修了講師代表としての答辞では、第48回の級長である全本田労連・涌井貴宏中央執行委員が14日間の思い出と



34名全員の無事修了、全員で記念撮影

## 実行委員会

各ゼミナールから班長、副班長を各1名互選し、計10名で実行委員会を編成する。実行委員会の中から1名級長を互選する。コースは受講生の主体的な運営を基本とし、実行委員会がその中心となる。

第48回コースの実行委員会メンバーは次のとおり。



実行委員会メンバー

級長 / 涌井貴宏 (全本田労連)

副級長 / 嶋崎智章 (パナソニックAVCネットワークス労組南門真支部)

鈴木寛之 (富士通システムズ・イースト労組)

山崎優作 (オムロンスイッチアンドデバイス労組)

鹿歸瀬 剛 (パナソニックAVCネットワークス労組横浜支部)

実行委員 / 合田 純 (パナソニックエコソリューションズ労組直轄・総合支部)

永見幸棋 (パナホーム労組)

劉 欣毅 (村田製作所労組)

三栗野伸一 (昭和電線労組)

小原智広 (コマツユニオンユーティリティ栃木支部)

## 受講生答辞より

涌井 貴宏 / 第48回コース級長 (全本田労連中央執行委員)

「時代の求める労働組合の役割」という総合テーマに基づいた様々な講義や多岐にわたるプログラムで構成された本コースは、私たちにとって充実した、大変有意義なものだったと実感しています。

そのように感じる事ができたのも、素晴らしい仲間と出会い、共に過ごしてきたからだと確信しています。異なる地域、異なる産別から集まった仲間たちと講義だけでなく、夜遅くまで語り合った時間は、見聞を広げてくれる何ものにも代えがたい貴重な経験だったと思います。そして、その仲間たちはこれからの組合活動においても、心強い仲間であるとともに、組合活動以外でも続く友人だと思っています。



答辞を読み上げる級長

## 第48回コースを終えて

現在の労働リーダーシップコース(旧西日本コース)の修了生は、今回の第48回を加えて通算で1657名

今後の決意を表明、最後に「卒業の歌」を全員で合唱し、閉校式が終了した。

今回の受講生アンケートをもとに運営委員会での検討を重ね、期間を若干延ばして開催した。たった2日間ではあるが、三役との

となり、旧東日本コース(第1~40回)の939名と合わせて、労働リーダーシップコースの修了生は2596名となった。

この成果については、2017年9月開催の金属労協第56回定期大会の際、修了生の代表から発表する機

特別討論会を実施したり、自主学習の時間を増やしたり、「組合戦略づくり」の講義ではグループ討議の時間を増やすなどの工夫を凝らすことができた。

会を設けたいと考えている。次回、第49回は2017年10月12日(木)~28日(土)の期間で開催する。更に充実したプログラムになるよう、検討していきたい。